


(様式1)

# 視 察 報 告 書

平成29年 6月 9日

鳥取市議会議長 下村 佳弘 様

議 会 運 営 委 員 会  
委員長 寺坂 寛夫 

本委員会は、下記により委員を派遣し、行政視察（調査）したので、その結果を報告します。

## 記

1 期 間	平成29年4月17日から平成29年4月19日まで
2 派 遣 先	神奈川県横須賀市・千葉県柏市・栃木県宇都宮市
3 視察内容 (調査)	<b>横須賀市</b> ：議会改革の取り組みについて ・議会基本条例について ・予算・決算の常任委員会化について ・議会制度検討会について ・議会IT化について ・通年議会について ・議員提案政策条例について <b>柏市</b> ：議会改革の取り組みについて ・議員間の自由討議について ・議会ICT化について ・議員提案政策条例について <b>宇都宮市</b> ：議会改革の取り組みについて ・議会基本条例について ・議会IT化について ・議員提案政策条例について ・広報・広聴機能の強化について
4 派遣委員 の氏名	委員長 寺坂寛夫 副委員長 平野真理子 委員 勝田鮮二・前田伸一、吉野恭介、魚崎 勇 橋尾泰博・山田延孝・上杉栄一 (下村佳弘議長・金谷洋治副議長)
5 委員会所見	別添のとおり
6 参加者所見	別紙のとおり

## 議会運営委員会行政視察（横須賀市・柏市・宇都宮市）所見等

・今回の視察は中核市での議会改革の特に進んでいる3つの市議会を視察した。確かにIT化は進んでいたが、情報公開という意味での議会報告会や議員と語る会などについては、どの市議会も市民の参加が少ないなど本市と同じ課題があり、全国的な問題であると感じた。今後本市においても、広報・広聴の充実に向けて取り組みの強化を図る必要がある。また、議会のIT化については、本市は新庁舎建設に向けて取り組んでおり平成31年7月には新庁舎が完成するので、それに伴い新しい議場への新システムの取り入れとして傍聴者やインターネット利用者やケーブルテレビの視聴者等にとって議会審議がわかりやすくなるように、プロジェクター、大型スクリーン、モニターなどの各種機器の導入整備や発言者が発言内容の補足資料を投影できる、書画カメラ、パソコン配線の導入整備などが必要であると感じた。

・鳥取市も議会基本条例の策定中であり、3市の取り組みは大変勉強になった。柏市は策定しない改革であったが、鳥取市もすでに改革を進めている点では理解できた。市民に聞かれた議会の実現、市民福祉の向上、将来にわたる市政の発展に寄与していくことを目指し、努力の必要性を強く感じ、それぞれの取り組み方があることを認識した。そうした取り組みを進めるために、議員一人一人の質の向上、日常活動の取り組み、市民の方々のお声をしっかりお聞きすることの重要性を改めて深く自覚した、有意義な視察をさせていただいた。

・議会改革の先進地視察を通して、議会活動の基本について学べたし鳥取市の現状を外側からみることができた。中核市の先進市例はレベルが高く、現状に満足せず改善改革を前進させている感じがした。まずは自分自身が鳥取市の内容・レベルを把握・勉強し、何が鳥取市に必要な改善すべきか感じたい。議会改革の先進市ランキング上位（中核市で13・22・29位）議会の姿勢や考え方を幅広く触れる機会に出来た。広報委員会が推進する議会報告会の役割やスケジュール、現状などを参考に考える考え方を学ぶことができた。特に中高生ジュニア会議や小学生座談会の話聞き、鳥取市でやるべきは先ずはここからではないかと感触を持った。常により善くを目指すため、条例を定めたら終わりではなく、継続的に議会制度を改革検討する会の設置も条例に記載されている点が素晴らしい。また、政策検討する会議を本年5月からスタートさせ、4年間のロードマップを策定し執行部の政策等をPDCAサイクルでチェックする体制に挑戦されている姿は見習う点。ICT化についても、PC更新のタイミングでタブレット型への切換えを先ずは議会側から議案審査に活用し順次執行部へと拡大していく計画を聞き、将来を見据えた取り組みに市議会としての力の差（経済力・情報収集・活用力・向上心）を感じた。通年議会は、余計な手順を極力省き形式的な会議を減らし議会の生産性を上げる効率的な手段だと



感じた。鳥取市でも検討すべきテーマである。請願審査に特化している先進市例もあり陳情審査の扱いなども検討課題と感じた。

・今回視察した横須賀市・柏市・宇都宮市の3市の中で、柏市のみ議会基本条例を制定していない。私はこれまで基本条例を議会改革のシンボリックな存在であるとともに、議会改革を進める基礎的な制度と考えていた。柏市議会としては、議員としての活動を充実させることが議会改革につながるのであり、あえて基本条例は必要としないという考えである。議会改革の取り組みは、その時の議員の意志で進められることになる。将来どのような人物が議員になろうと、議会活動を前向きに進めていく議会としての意志を示すことに基本条例の意義があるのではないか。条例の必要性について改めて考える機会となった。

・横須賀市の議会基本条例については特に目新しい事項はなかった。市民との懇談会・議会報告会は開催周知から準備、開催、結果報告まで工夫しているが、人数の伸び悩み、参加者の固定化が生じており、更なる工夫が必要とされている。議会のIT化については本会議と委員会を中継対象としている。今後鳥取市議会で中継を委員会等へ拡大するうえで参考となった。柏市議会は議会改革の中に議会基本条例が含まれていない。議会基本条例を制定しなくても議会改革は行えるとの見解である。議場システムは鳥取市の新庁舎での議場に適用するうえで参考になった。ただ、システムのソフトウェアが新ソフトに対応できなくなる恐れがある。実際柏市はその対応に追われかなりの費用を投じて復帰させたとのことである。今後各市でも同様の事態が発生するのではないかと危惧される。宇都宮市議会の広報・広聴機能の強化については広報広聴委員会の設置、議会広報紙の点字・音声版作製、市内大学・高校への送付、ミニ特集作成など参考にすべき施策であった。

・横須賀市議会は議員も多く、議会のIT化に積極的に取り組んでいる印象を持った。中継を配信するとなれば予算面、執行部との均衡、調整、委員会における発言及び円滑な運営、個人情報や不適切発言への対応など様々な課題の整理が求められるが、情報を管理し共有することは重要であり、多くの市民に議会の活動状況をいつでも見られる環境を構築することは市政に関心を持っていただき市民参画を推進するツールとして、鳥取市も検討を進めてはと思った。柏市議会については視覚的に資料や写真も活用して、誰にも分かりやすく見やすい議会の運営が今後の議会のあり方だと感じた。宇都宮市議会はタブレット端末を議員全員に無償貸与して、ペーパーレスを試行しているが、議員全体のスキル向上、執行部側がタブレット端末を保有していないなど、各種条件の整備が必要であり、時期尚早と考える。

・横須賀市議会の取り組みは、通年議会が特に注目される場所であるが、専決処分等で議会軽視を主張されているが、これは地方自治法に規定されている行為で、これを理由に議会軽視であるということにはならないと思う。通年議会は、地方議会にはなじまないとは思った。通年議会は地方議会で実施するより、国会での実施を強く働きかけることの方が重要ではないかと感じた。柏

市議会の議場システムは大変参考になった。鳥取市議会においても庁舎の新築にあわせてこのような議場システムの導入に積極的に取り組むべきであり、開かれた議会をめざすためにも参考になる事例であると感じた。宇都宮市議会の取り組みとしては、鳥取市議会の取り組みが優れていると思うが、タブレット端末の活用等については、積極的であり見習うべき点があると感じた。議会改革の取り組みは、それぞれの地方議会の特色がありどれが正しいとかどの方法が良いということではないと思う。地域の実情にあった方式を導入することにより市民に開かれた議会をめざすことが求められているものと思う。

・予算・決算常任委員会の取り組みについて、横須賀市議会と鳥取市議会の相違は、横須賀市は常任委員会に対して本市議会は特別委員会を採用している。しかし、審査の流れに大きな相違はない。横須賀市では議長を除く全議員が予算・決算常任委員であるのに対し、鳥取市議会では、決算審査特別委員会は議会選出の監査委員を除く全員となっている。監査委員の除斥については様々な意見はあるが、審査の過程において監査委員意見に対する質疑等もあり、監査委員が委員となっている横須賀市の場合、このことの整合性が担保できるのか少し疑問を感じた。また議会報告会については参加者数の伸び悩みや参加者の固定化等本市と同様の悩みを抱えているが、横須賀市のみならず全国の議会での課題と考える。言い換えるならば、議会に対する関心の低さの表れではないかと思う。報告会の内容等の検討が必要と感じた。通年議会の導入目的に、地方自治法第 179 条関連（専決処分）のためとのことであるが、実際には専決処分は毎年 0 件から 3 件程度であり、通年議会のメリットは感じられない。柏市議会の議会運営委員会の構成は、2 名以上の会派を交渉会派としており、16 名をもって構成している。そのため代表者会は開催していないとのこと。また、請願・陳情の取り扱いでは、請願のみを委員会付託しており、陳情書は写しを全議員に参考送付している。さらに審議結果を請願者に通知の折には、理由を付していないとのことであった。陳情を審査しないことについては、議会の責任をどうかと考えるが、鳥取市議会でも、県外陳情者、議長の判断で文書配布の例もあり、陳情に対する見直しも含めて検討する必要があるのではと考える。宇都宮市議会は、ペーパーレス化の推進のためタブレット端末導入の取り組みでは、年間 8 万枚の削減ができたとのこと。一定の効果はあると考えるが、議員間のタブレット端末操作に不慣れな議員もあり、スキルアップが必要。紙データの場合、書き込みができるが、タブレットの場合書き込みが不可のため聞き流したり見過ごすことも多いのではないかと考える。また、改選後の新議員への研修等事務局の負担増も考えられる。

・横須賀市議会は、HP、テレビ中継、会議検索システム、議会インターネット中継システム等、積極的に取り組まれていた。また、『よこすか市議会なるほどガイド』が発行され、わかりやすく親しみやすい、漫画・図解を駆使した内容で、市民にも理解できると感じた。議員研修会も多種多様な内容で、毎年 3 回程度されていて、議員自ら勉強に余念がないと思った。本市にも大変参考になり検討したい。柏市議会はかなり改革が先行していると感じた。本市にも導入できる項目が多く見受けられた。しかし議会基本条例は H29 も作らないとの

こと。議会報告会もされていなかった。議運で全会一致でないと前へ進まないシステムとなっていた。また、議会改革は試行的にやってみようで進めている。議員が前向きな考えで大変参考となる。宇都宮市議会では、『中高生のアイデアが未来を変える！』を合言葉にジュニア未来会議と称して、毎年8月に開催され、幅広く意見を聞き精査され検討されている。観光面では、全国的に餃子が有名だが、カクテルの街、ジャズの街にも取り組まれ、ジャズは毎年6月定例会開会日に開催されており、市と議会が一体となり全国にPRする努力をされていると感じた。本市もこのような取り組みはぜひとも取り組むべきと思う。

